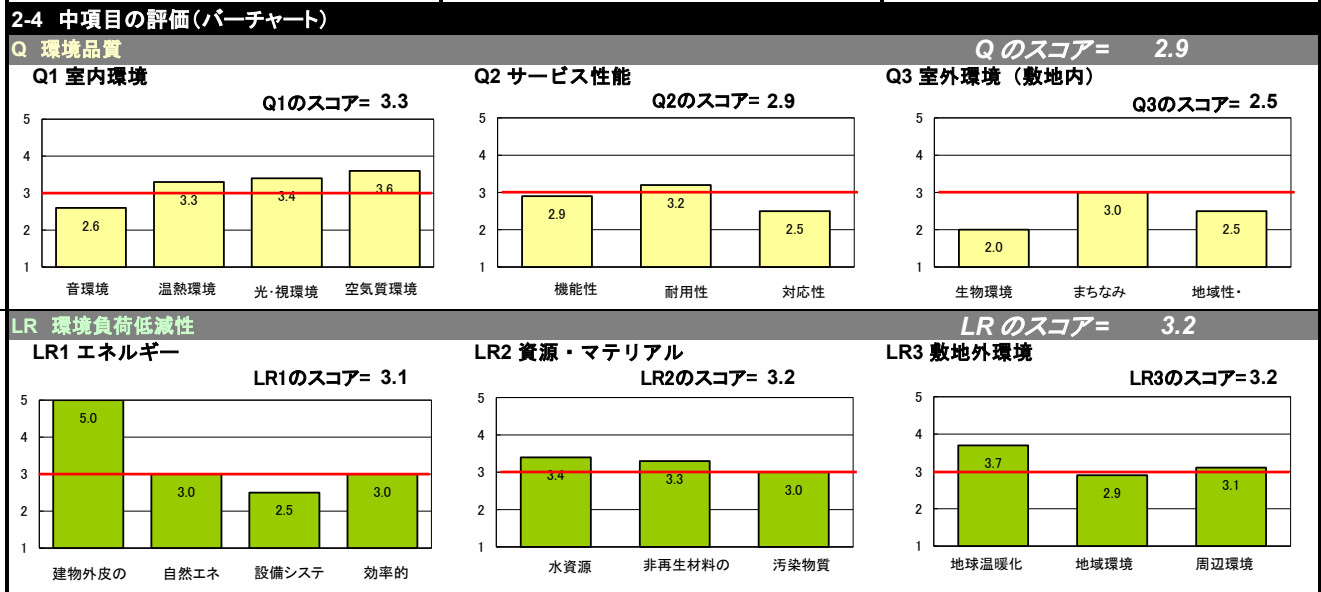
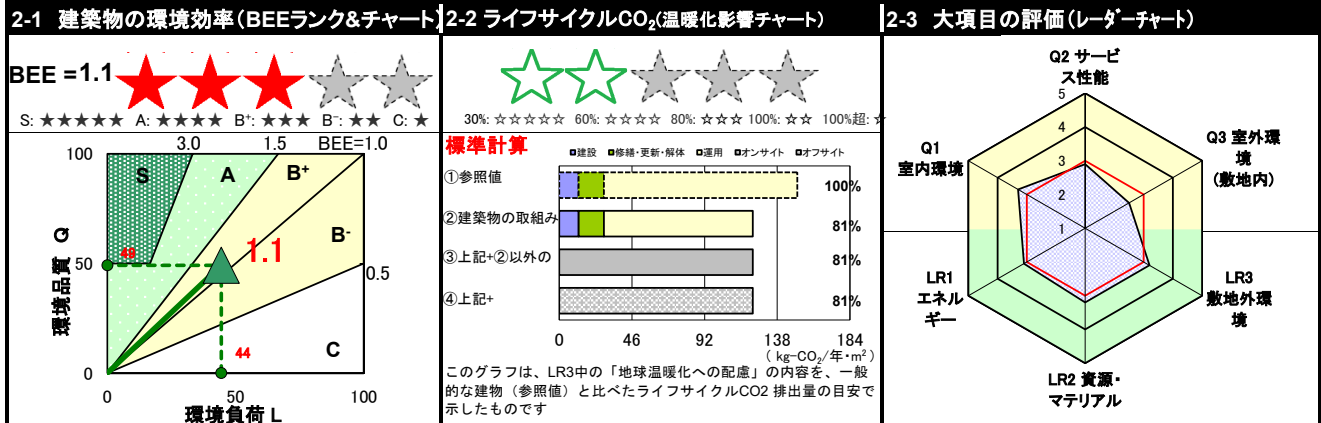




1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)横浜市旭区四季美台PJ	階数	地上5F
建設地	神奈川県横浜市旭区四季美台25番2	構造	RC造
用途地域	第1種低層住居専用地域、準防火地域	平均居住人員	80 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年9月 予定	評価の実施日	2025年8月20日
敷地面積	1,380 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社 明建築設計事務所
建築面積	679 m <sup>2</sup>	確認日	2025年8月20日
延床面積	2,542 m <sup>2</sup>	確認者	株式会社 明建築設計事務所

外観パース等(任意)



3 設計上の配慮事項		
総合		その他
横浜市に計画された地上5階建て、RC造の老人ホーム。快適な室内空間となるよう十分な採光、通風を確保した。また、断熱性能を高めるとともに、高効率設備や節水器具を採用することでライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出量を削減した。		特になし。
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
化学汚染物質対策として、内装材及び接着剤などは全てF☆☆☆☆を採用した。共用部、居室ともに十分な採光がとれるよう開口部を計画した。	耐用性に配慮し、更新間隔の長い内装材、配管を採用した。	敷地内は積極的に中低木で緑化するとともに、外壁や屋上にも緑化の計画を行った。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
高効率の設備を採用することで運用時の消費エネルギー削減に努めた。	水資源保護として自動水栓や節水型便器を採用。躯体と仕上げ材が容易に分別できるようにしたり、再利用できるユニット部材を用いて、部材の再利用可能性向上に取り組んだ。	光害対策として、屋外広告には行わず敷地外環境に配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



4 横浜市重点項目についての環境配慮概要		<非住宅>		受付日 2025年8月21日	
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。				建物名称 (仮称)横浜市旭区四季美台PJ	
建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving		重点項目への取組(5点満点)		【省エネルギー性能】	2
■省エネルギー性能					
この建物の設計一次エネルギー消費量		23	%削減		
		再エネなし		再エネあり	
		削減率	23%	削減率	23%
		BEI値	0.77	BEI値	0.77
基準一次エネルギー(100%)					
■エネルギー対策 (①建物外皮の熱負荷抑制 ②自然エネルギー利用 ③設備システムの高効率化 ④効率的運用)					
BPI値=0.68					
健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community		重点項目への取組(5点満点)		【快適・働きやすさ】	3
■室内環境対策 (⑨温熱環境対策 ⑩光環境 ⑪空気質環境)					
窓システム、外壁、屋根や床において、最良の日射遮蔽性能および断熱性能を有する。					
十分な昼光率を確保。F☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。					
■機能性対策 (⑫機能性 ⑬知的生産性向上の取組)					
■室外環境(敷地内)対策 (⑭敷地内温熱環境の向上)					
防災への配慮 (R) Resilience		重点項目への取組(5点満点)		【防 災】	3
■耐用性・信頼性 (⑮耐震・免震 ⑯部品・部材の耐用年数向上 ⑰信頼性)					
内装材:必要更新間隔20年以上(カーペット、塩ビクロス)					
給排水管:主要な用途上位3種のうち2種以上にB以上を使用し、Eは不使用					
光ケーブル、PHS網など、通信手段の多様化を図っている。					
ネットワーク機器用に無停電装置が設備されている。					
地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape		重点項目への取組(5点満点)		【地域・まちづくり】	2
■室外環境(敷地内)対策 (⑱生物環境 ⑲まちなみ・景観 ⑳地域性への配慮)					
太陽光発電などの導入		環境配慮技術の導入 (太陽光・熱利用、エネルギーマネジメントシステム以外)			
エネルギーマネジメントシステム導入					



CASBEE横浜2025年版v1.0

(仮称)横浜市旭区四季美台PJ

バージョン CASBEE横浜2025年版v1.0

スコアシート		重点項目		建物全体・共用部		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質				-	-	-	-	2.9
Q1 室内環境				-	0.40	-	-	3.3
1 音環境				2.6	0.15	2.6	1.00	2.6
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40	3.0	0.40	-
1.2 遮音				3.0	0.40	3.0	0.40	-
1 開口部遮音性能				3.0	0.40	3.0	0.30	-
2 界壁遮音性能				3.0	0.60	3.0	0.30	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	3.0	0.20	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	3.0	0.20	-
1.3 吸音				1.0	0.20	1.0	0.20	-
2 温熱環境				3.2	0.35	3.4	1.00	3.3
2.1 室温制御				3.5	0.50	3.8	0.50	-
1 室温	快適・働きやすさ	⑨温熱環境		3.0	0.38	3.0	0.57	-
2 外皮性能	快適・働きやすさ 健康・安心	⑨温熱環境 ⑤外皮性能		5.0	0.25	5.0	0.43	-
3 ゾーン別制御性	快適・働きやすさ	⑨温熱環境		3.0	0.38	-	-	-
2.2 湿度制御	快適・働きやすさ	⑨温熱環境		3.0	0.20	3.0	0.20	-
2.3 空調方式	快適・働きやすさ	⑨温熱環境		3.0	0.30	3.0	0.30	-
3 光・視環境				3.3	0.25	3.6	1.00	3.4
3.1 昼光利用				5.0	0.30	4.2	0.30	-
1 昼光率	快適・働きやすさ	⑩光環境		5.0	0.60	5.0	0.60	-
2 方位別開口	快適・働きやすさ	⑩光環境		-	-	-	-	-
3 昼光利用設備	快適・働きやすさ	⑩光環境		5.0	0.40	3.0	0.40	-
3.2 グレア対策				2.0	0.30	4.0	0.30	-
1 昼光制御	快適・働きやすさ	⑩光環境		2.0	1.00	4.0	1.00	-
3.3 照度	快適・働きやすさ	⑩光環境		3.0	0.15	3.0	0.15	-
3.4 照明制御	快適・働きやすさ	⑩光環境		3.0	0.25	3.0	0.25	-
4 空気質環境				3.6	0.25	3.6	1.00	3.6
4.1 発生源対策				4.0	0.50	4.0	0.63	-
1 化学汚染物質	快適・働きやすさ	⑪空気質環境		4.0	1.00	4.0	1.00	-
4.2 換気				2.0	0.30	3.0	0.38	-
1 換気量	快適・働きやすさ	⑪空気質環境		3.0	0.50	3.0	0.33	-
2 自然換気性能	快適・働きやすさ	⑪空気質環境		-	-	5.0	0.33	-
3 取り入れ外気への配慮	快適・働きやすさ	⑪空気質環境		1.0	0.50	1.0	0.33	-
4.3 運用管理				5.0	0.20	-	-	-
1 CO <sub>2</sub> の監視	快適・働きやすさ	⑪空気質環境		-	-	-	-	-
2 喫煙の制御	快適・働きやすさ	⑪空気質環境		5.0	1.00	-	-	-
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	2.9
1 機能性				2.4	0.40	4.0	1.00	2.9
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	5.0	0.60	-
1 広さ・収納性	快適・働きやすさ	⑫機能性		-	-	5.0	1.00	-
2 高度情報通信設備対応	快適・働きやすさ	⑫機能性		-	-	-	-	-
3 バリアフリー計画	快適・働きやすさ	⑫機能性		3.0	1.00	-	-	-
1.2 心理性・快適性				1.0	0.30	2.5	0.40	-
1 広さ感・景観	快適・働きやすさ	⑫機能性		-	-	4.0	0.50	-
2 リフレッシュスペース	快適・働きやすさ	⑫機能性		-	-	-	-	-
3 内装計画	快適・働きやすさ	⑫機能性		1.0	1.00	1.0	0.50	-
1.3 維持管理				3.0	0.30	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計	快適・働きやすさ	⑫機能性		3.0	0.50	-	-	-
2 維持管理用機能の確保	快適・働きやすさ	⑫機能性		3.0	0.50	-	-	-
2 耐用性・信頼性				3.2	0.30	-	-	3.2
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-	-
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	防災	⑬耐震・免震		3.0	0.80	-	-	-
2 免震・制震・制振性能	防災	⑬耐震・免震		3.0	0.20	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数				3.6	0.30	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数	防災	⑭部品・部材の耐用年数向上		3.0	0.20	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	防災	⑭部品・部材の耐用年数向上		3.0	0.20	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	防災	⑭部品・部材の耐用年数向上		5.0	0.10	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	防災	⑭部品・部材の耐用年数向上		3.0	0.10	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	防災	⑭部品・部材の耐用年数向上		5.0	0.20	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔	防災	⑭部品・部材の耐用年数向上		3.0	0.20	-	-	-
2.4 信頼性				3.2	0.20	-	-	-
1 空調・換気設備	防災	⑮信頼性		3.0	0.20	-	-	-
2 給排水・衛生設備	防災	⑮信頼性		2.0	0.20	-	-	-
3 電気設備	防災	⑮信頼性		3.0	0.20	-	-	-
4 機械・配管支持方法	防災	⑮信頼性		3.0	0.20	-	-	-
5 通信・情報設備	防災	⑮信頼性		5.0	0.20	-	-	-
3 対応性・更新性				2.6	0.30	2.4	1.00	2.5
3.1 空間のゆとり				1.8	0.30	1.8	0.50	-
1 階高のゆとり				1.0	0.60	1.0	0.60	-
2 空間の形状・自由さ				3.0	0.40	3.0	0.40	-
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.30	3.0	0.50	-

	3.3 設備の更新性		3.0	0.40		-	-
	1	空調配管の更新性	3.0	0.20		-	-
	2	給排水管の更新性	3.0	0.20		-	-
	3	電気配線の更新性	3.0	0.10		-	-
	4	通信配線の更新性	3.0	0.10		-	-
	5	設備機器の更新性	3.0	0.20		-	-
	6	バックアップスペースの確保	3.0	0.20		-	-
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30		-	2.5
1	生物環境の保全と創出		2.0	0.30		-	2.0
2	まちなみ・景観への配慮		3.0	0.40		-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮		2.5	0.30		-	2.5
	3.1	地域性への配慮、快適性の向上	2.0	0.50		-	-
	3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.50		-	-
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-		-	3.2
LR1 エネルギー			-	0.40		-	3.1
1	建物外皮の熱負荷抑制		5.0	0.20		-	5.0
2	自然エネルギー利用		3.0	0.10		-	3.0
3	設備システムの高効率化		2.5	0.50		-	2.5
	集合住宅以外の評価		2.5	1.00		-	-
	集合住宅の評価			-		-	-
4	効率的運用		3.0	0.20		-	3.0
	集合住宅以外の評価		3.0	1.00		-	-
	4.1	モニタリング	3.0	0.50		-	-
	4.2	運用管理体制	3.0	0.50		-	-
	集合住宅の評価			-		-	-
	4.1	モニタリング	3.0	-		-	-
	4.2	運用管理体制	3.0	-		-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30		-	3.2
1	水資源保護		3.4	0.20		-	3.4
	1.1	節水	4.0	0.40		-	-
	1.2	雨水利用・雑排水等の利用	3.0	0.60		-	-
	1	雨水利用システム導入の有無	3.0	0.70		-	-
	2	雑排水等利用システム導入の有無	3.0	0.30		-	-
2	非再生性資源の使用量削減		3.3	0.60		-	3.3
	2.1	材料使用量の削減	2.0	0.11		-	-
	2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.22		-	-
	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.22		-	-
	2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	3.0	0.22		-	-
	2.5	持続可能な森林から産出された木材		-		-	-
	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	5.0	0.22		-	-
3	汚染物質含有材料の使用回避		3.0	0.20		-	3.0
	3.1	有害物質を含まない材料の使用	3.0	0.30		-	-
	3.2	フロン・ハロンの回避	3.0	0.70		-	-
	1	消火剤		-		-	-
	2	発泡剤(断熱材等)	3.0	0.50		-	-
	3	冷媒	3.0	0.50		-	-
LR3 敷地外環境			-	0.30		-	3.2
1	地球温暖化への配慮		3.7	0.33		-	3.7
2	地域環境への配慮		2.9	0.33		-	2.9
	2.1	大気汚染防止	3.0	0.25		-	-
	2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.50		-	-
	2.3	地域インフラへの負荷抑制	2.7	0.25		-	-
	1	雨水排水負荷低減	3.0	0.25		-	-
	2	汚水処理負荷抑制	3.0	0.25		-	-
	3	交通負荷抑制	3.0	0.25		-	-
	4	廃棄物処理負荷抑制	2.0	0.25		-	-
3	周辺環境への配慮		3.1	0.33		-	3.1
	3.1	騒音・振動・悪臭の防止	3.0	0.40		-	-
	1	騒音	3.0	1.00		-	-
	2	振動		-		-	-
	3	悪臭		-		-	-
	3.2	風害、砂塵、日照阻害の抑制	3.0	0.40		-	-
	1	風害の抑制		-		-	-
	2	砂塵の抑制	1.0	-		-	-
	3	日照阻害の抑制	3.0	1.00		-	-
	3.3	光害の抑制	3.7	0.20		-	-
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0	0.70		-	-
	2	壁光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	3.0	0.30		-	-
上記以外の重点項目				-		-	-
<事務所用途>				-		-	-
知的生産性向上への取組			快適・働きやすさ	⑬知的生産性向上への取組	-	-	-
<住宅用途>				-		-	-
健康と安心				-		-	-
	1	化学汚染物質の対策	健康・安心	⑥健康対策	-	-	-
	2	適切な換気計画	健康・安心	⑥健康対策	-	-	-
	3	結露・カビ対策	健康・安心	⑥健康対策	-	-	-
	4	犯罪に備える(共用部の防犯対策)	健康・安心	⑦防犯対策	-	-	-